

yamaguchi.cycling.federation



Official partnership program guidance

2024-2025



山口県自転車競技連盟 とは

山口県下における自転車競技を統轄し、自転車競技の健全な普及を図り
体育文化の向上に寄与する事を目的としています。

- ・山口県の自転車競技に関する競技力の向上
- ・指導研究及び諸行事の開催
- ・自転車競技大会の開催
- ・各種自転車競技大会への選手派遣



2011年に開催された第 66 回国民体育大会(山口国体)自転車競技会の開催後
の、競技普及、競技役員の養成や競技者の競技力向上事業を行っています。

具体的には、自転車愛好者を中心とした自転車イベントを開催し自転車競技の普
及広報、ジュニア競技者の健全育成とシニア層の愛好者の健康増進に寄与するこ
とで県内の競技レベルの向上を狙っています。

また2023年は、長門市及び美祢市において目標としていたUCI国際レースを誘致
するなど全国各地から競技者や観戦者を迎え、観光交流人口の増加及びサイクリ
ングマーケットの拡大を目的に、より多くの参加者及び観戦者の皆さまからのご支
持を得られ、地域の活性化につながるようなイベントを提供しています。

地域密着型サイクルスポーツクラブ

地域密着型サイクルスポーツクラブとは

地方での愛好者、競技者の底辺を増やし、より高い競技力を作り出す環境を地方独自に作る事が重要です。

山口県では、2011年の「おいでませ！山口国体」の開催を契機に2014年からは全日本実業団自転車競技連盟(JBCF)の大会を年間6大会誘致し、その内トップカテゴリーとなるプロツアーが2大会開催されています。

また、2016年には山口県知事が主導しての「サイクル県やまぐちプロジェクト」が発足し、競技力の向上として地元選手の育成、強化など環境整備を行政と連携した地域密着型の実業団クラブチームを目指しています。

- ・山口県自転車競技連盟が運営する地域密着型サイクルスポーツクラブ
- ・JBCFが主催するJエリートツアーへ参戦
- ・サイクルスポーツイベントの開催や運営協力
- ・「サイクル県やまぐちプロジェクト」との連携
- ・ジュニア期選手の発掘育成
- ・県内指導者の養成
- ・プロチーム、海外遠征への選手斡旋



JBCF Team = 山口県自転車競技連盟・我逢人 =

代 表： 棟久 明博
G M： 田中 謙治
事務局 長： 森岡 智之
監 事： 志賀 孝治
監 督： 杉山 文崇
キャプテン： 福田 健一



2007年より実業団クラブチーム「エスペランス・スタージュ」を設立し、全国各地で開催される実業団大会を転戦、2016年よりチーム名を「フィールズ・オン・アース山口」に変更、2017年から「山口県自転車競技連盟」と名称変更し現在に至っています。

現在、山口県の選手を中心に、約51名の選手が在籍し、本拠地となる山口県内では、地域スポーツの振興、サイクルスポーツの普及、競技者の育成・強化として、様々なサイクリングイベント開催への協力をしています。また、希望者にはフランス等の海外遠征の斡旋などのチャンスも与えています。

九州・中国地方から世界へ羽ばたく自転車競技選手を生み出していく為にも、「サイクルスポーツの普及」と「選手の育成」、そしてより高いレベルでの実戦経験を積んでいくことで「競技力向上」を一貫して行っていけるチームを目指しています。

JBCF Team = 山口県自転車競技連盟・我逢人 =

登録選手の募集について

JBCF Team 山口県自転車競技連盟・GRPでは、選手を募集しています。
チーム練習、JBCFのJエリートツアー(E1～E3)へのレース参加、イベントサポート等のチーム活動を通して、競技力の向上および安全な走行マナー、交通ルールを習得し、心身ともに優れたロードレーサーの育成を目指しています。

プラン1 年会費30,000円 クラブ会員(ジュニアクラブを含む)

プラン2 年会費40,000円 JBCF登録チームへ所属

プラン3 年会費20,000円 クラブユニフォーム(上下1着)の支給無しで、活動する。

求められる選手の人物像について

- 限られた時間の中で自転車競技に真面目に取り組み、競技能力を向上させたい方
- チームが定める主要レースに参加できる方
- JCF(日本自転車競技連盟)およびJBCF(全日本実業団自転車競技連盟)に登録レーサーとして活動できる方

チームへのお問い合わせ

チーム代表 棟久 090-5374-8498

山口県ジュニアスポーツサイクルスポーツクラブ

ジュニア選手の育成

2021年4月からは2004年に創立した「山口県ジュニアサイクルスポーツクラブ」と合併し、山口県内のどの世代でも一体的に地域に根差したサイクルスポーツの推進をおこなっています。

また、JBCF(一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟)の管理統括する全国各地で開催されるツアーに参加しながら、本拠地となる山口県内では、地域スポーツの振興、サイクルスポーツの普及、競技者の育成・強化として、様々なサイクルイベント開催への協力をしています。



お問い合わせ

代表 白川 080-3183-7158

交通安全教育の推進

自転車“ヘルメット着用”努力義務化に向けた取り組み

2023年4月から、自転車に乗る人はヘルメットの着用が努力義務化されました。

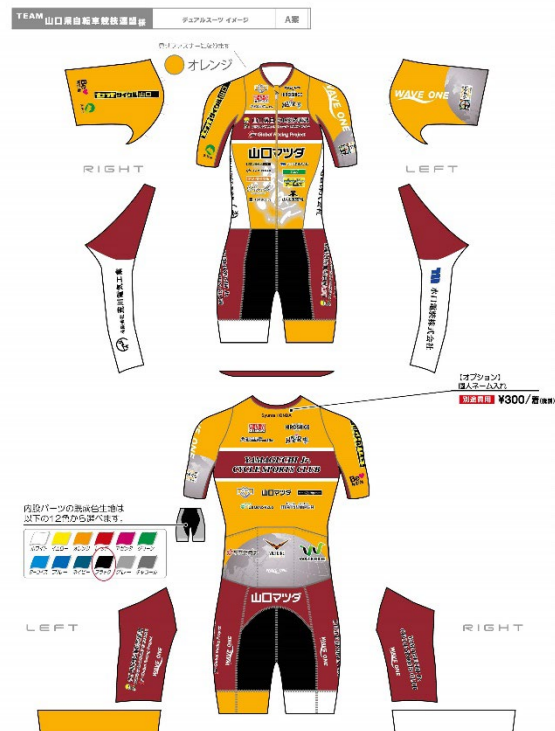
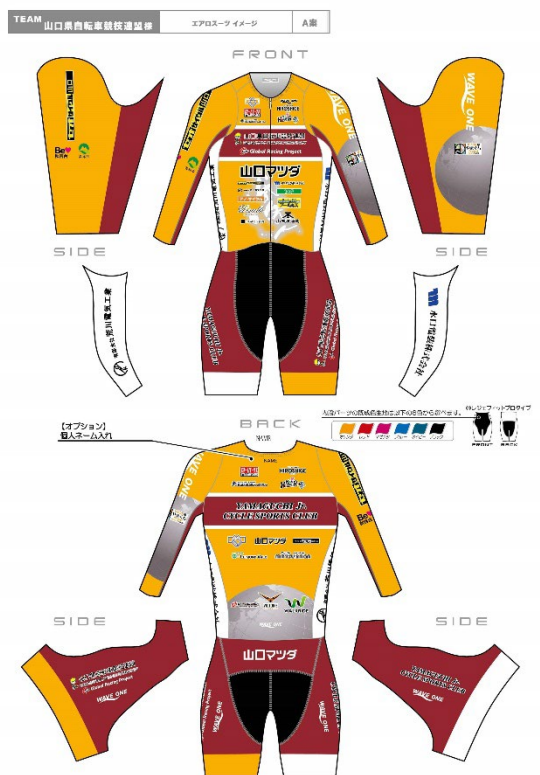
ヘルメットの努力義務についてはこれまで、児童や幼児が自転車に乗る際、ヘルメットの着用が努力義務とされてきました。4月の法改正では、これが年齢にかかわらず自転車利用者全員に適用されるようになっていきます。

山口県自転車競技連盟では、小学校への自転車安全講習(ヘルメットの正しい被り方)や通勤だけでなく業務でも自転車を使用されます企業様へ向けた講義などをご提供できます。



JBCF Team Wear & Jr Team Wear

チームジャージ JBCF登録チーム





主催事業等



きらら浜サイクルミーティング(山口市)
山口シクロクロス(下関市・山口市)
JBCF大星山ヒルクライム(平生町)
JBCFしゅうなんクリテリウム(周南市)
国体・マスターズ選考会(防府市など)
JBCFしものせきクリテリウム(下関市)
チャレンジ・ザ・バンクin防府競輪場(防府市)
西日本地域自転車競技オムニアム大会(防府市)



パートナーシッププログラム

■パートナーシッププログラム

パートナーシッププログラムは、従来のスポンサー制度と同様、サイクルスポーツの発展に寄与する志を持つ企業様に対して、その商品・サービスの販促活動の場として、またCSR活動(企業の社会的責任)の一環として展開していただけるように、ご用意させていただくプログラムになります。

あくまで数字で表すことのできない定性的なスポンサーシップとはなりますが、そのリレーションシップの形は、カスタマイズが可能となりますので、ご興味があるスポンサーの方々は、是非ご検討いただき、お声をかけていただければと思います。

■お問合せ

yamaguchi98_cf@yahoo.co.jp

山口県自転車競技連盟

担当:

棟久 090-5374-8498

森岡 090-4808-4747



広報活動について

- ・ 一般・地元メディアへの露出
- ・ 自転車競技連盟公式ホームページへの掲載
- ・ Facebookへの掲載
- ・ ポスターの掲出
- ・ 自転車専門メディアへの記事露出(雑誌・Web)



表彰バックボードのイメージ



サイクル県やまぐちプロジェクトへの露出



サイクル県
やまぐち
Project
～やまぐち自転車旅～

露 出 展 開

シケイン



スタートフィニッシュゲート



物品提供型

出 店

これまでの実績 (Web・SNS)



インサイトを見る 写真を見る

kanayo5538さん、他220人が「いいね」しました
yamaguchicyclingfederation | きららサイクリングミーティング
2021-2022シリーズ (新設会)
4月11日に実施しました。
(1) 身体能力テスト 個人タイム・トライアル (3.9KM)
(2) 継続トレーニング 2時間エンデュロ
(3) 再発トレーニング チーム・タイム・トライアル



FACEBOOK

Instagram

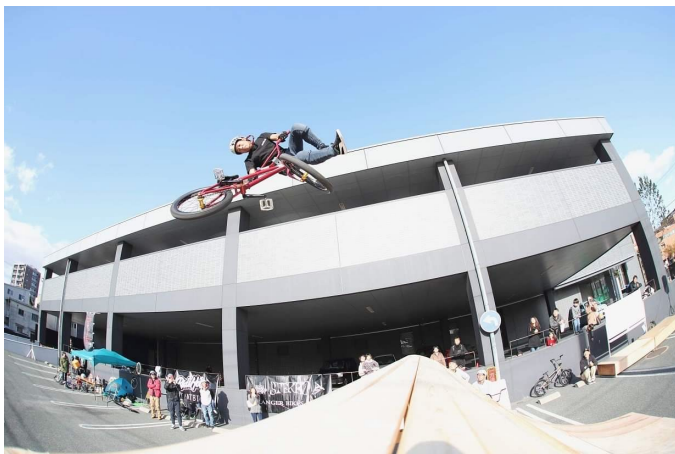


今 後 の 展 開

・山口県では、これまで取り組んできた「サイクル県やまぐち」の成果を継承発展させ、新しいスポーツツーリズムを推進するためサイクル県やまぐちプロジェクトをコアにアウトドアフィールドにおけるアクティビティーを結び付けた観光交流人口の拡大を目指していきます。

県内外から幅広く集客。

- ・2016年サイクル県やまぐちの展開以降、競技者・愛好者が増加。
 - ・冬場や観光交流人口の希薄な時期にもイベントを開催。
 - ・地方大会でありながら全国規模の選手の集まるイベントとなります。
- また、今後全日本選手権、UCI国際レース等への展開も検討。



自転車を利用したSDGsへの取り組み

SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

最近、新聞やテレビの中でよく聞くようになった「SDGs(エスディーゼーズ)」という言葉。学校の授業や仕事を通じて「SDGs」を知った、という人も多いのではないのでしょうか。

日本でもほぼ2人に1人が「聞いたことがある」と答えるなど、その認知度は確実に上がっています。



JAPAN SDGs Action Platform

自転車を利用したSDGsへの取り組み

SDGs(持続可能な開発目標)とは、“2030年までに達成すべき17の目標”

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



自転車を利用したSDGsへの取り組み

私たちは自転車イベントの企画開発をととして、CO2の削減に取り組んでいます。
また、自転車の利用を高めていくことにより、よりよい未来を目指しています。

- ・通勤・通学の自転車の利用率を高められる自転車環境の開発
- ・あらゆる自転車環境の整備を行うことで自転車を活用しやすい街づくり
- ・自転車イベントの実施
- ・SDGs取り組み企業とタイアップし自転車を活用した環境への取り組みの企画提案
- ・自転車ラックの設置による自転車を活用しやすい街づくり

